

合併後、理念で組織を一つにつなぐ 北海道発の環境貢献企業に

おもてなし経営のポイント

- ❖ 企業合併後、双方の社員の仲をつないだ理念経営
- ❖ 気持ちよく楽しく環境に貢献できる場と方法を、リユースによって提供
- ❖ 10人の社長をつくるため、成長の機会を持つことができる権限委譲

経営理念と企業文化

アルバイトまで浸透させる 理念経営は合併がきっかけ

株式会社エコノスは、北海道で「ブックオフ」および「ハードオフ」のフランチャイズを営んでいる。以前は家電販売のフランチャイズをしていたが、本部が倒産したことを機に10年前にリユース事業へ転換。その2年後、ブックオフのフランチャイズを行なう会社と合併し、現在に至る。

合併とは「違う環境で育った子ども同士が結婚するようなもの」であり、一つの会社として順調に経営していくのは非常な困難であった。

いかにして舵取りを行なうか。代表取締役社長の長谷川勝也氏が考えたのは、「フランチャイジーとしての理念とは別に、当社に大きな柱を入れること」。つまり、独自の理念による経営だった。そこで、「当社の全ての事業活動を通して地域社会に貢献し、全従業員の成長と幸せを実現する」。これを柱として据えた。

また、方針としては、リサイクル、リユースなどの「Re」をキーワードに循環型ビジネスを推進することで、環境と経済という相反しがちな概念の共生を可能にしようと考えた。

この理念と方針を共通認識とするために、各店舗で朝礼を徹底、パート・アルバイトにも理念研修を行ない、全

員が同じ方向に歩む環境を整備した。

地域・社会との関わり

北海道発。カーボン・オフセット を通じて、環境や地域に貢献

やがて共通認識となった理念は、環境面から社会に貢献しようという思いへと進化し、事業を世界にまで広げていく。2011年にはスイスのNPO法人マイクライメイトと共同出資し、同社の環境事業推進部を分離独立させてマイクライメイトジャパン株式会社を設立した。事業内容はカーボン・オフセットなどの地球温暖化対策関連技術やサービスの提供である。カーボ

エコノス理念体系	
「エコノスが目指す会社像」	ビジョナリー・エクセレント・カンパニー (理念が全従業員に響き渡り、持続的に体現する好循環を生み、他のステークホルダーにも啓かせ、企業価値を高める会社)
「経営理念」	全ての事業活動を通して地域社会に貢献し、全従業員の成長と幸せを実現する
「ミッション(使命・ドメイン)」	“エコロジー(環境)とエコノミー(経済)の共生”をテーマに、すべての人が、気持ちよく楽しく環境に貢献できる場と方法を提供し続けることで、豊かな未来の創造に挑戦する！！
「行動指針」	私たちは、コンプライアンスの重要性を認識し実践するための倫理規範として、以下の行動指針を掲げる ①社会のためになるか ②お客様のためになるか ③従業員のためになるか ④会社のためになるか ※4条件をすべて満たしているか
「ビジョン(中期計画)」	2016年3月までにIPO(株式公開)を実現する！！ そのために、循環型経済社会や持続可能な社会に貢献する代表的な企業になることを目標に、 独自の「循環型ビジネス総合カンパニー」を早期に実現し、中期計画を上回る経常利益率10%を目指す！！



ン・オフセットとは、企業活動などあらゆる活動から生じる温室効果ガスを、森林保全やペレットボイラーの導入といった温室効果ガスの削減吸収を通してオフセット(相殺)することである。

また、エコノス自らの取り組みとして、北海道当別町道民の森に1haの土地を借り、「エコノスの森」をつくった。毎年200本の植樹と下草刈りを社員が行ない、10年という歳月をかけて牧草地であった土地を森に戻す環境貢献を実施しており、社員の地域貢献への意識を高めている。

社員の意欲・能力向上

一旦他社に就職しても、 戻ってきたいくなる働きやすさ

環境貢献をベースに事業活動する同社。環境貢献の土台は、経営理念の後半部分「全従業員の成長と幸せ

を実現する」という心にある。その思いは各店舗にも浸透しており、ある店長は「アルバイトも含めた社員一人ひとりに成長してほしい」と話す。中には、学生時代に同社でアルバイトをしていて、一旦は就職したが、退社して同社に戻ってきた人もいる。働きがいがあり、働きやすい環境があることの裏付けだ。

ブックオフやハードオフの店舗には、高い専門性やこだわりを持っているアルバイトも多い。たとえば、アニメに詳しいスタッフは、ほかのスタッフには分からない最新情報をつかみ、売り場に反映している。当人にとっても、自分の好きなことを仕事として表現する機会が得られ、大きなやりがいになっている。同社では、さらに専門性の高いスタッフ採用を促進中だ。たとえば、元呉服店経験者のいる店舗では、着物の買い取りと販売を強化し、売り場の充実を図っている。

以前、業態転換期に経営不振に陥った際、苦渋の選択で人員解雇をした長谷川氏。解雇した社員すべてに対して再就職支援を行なったが、「あの経験は二度としたくない。社員が幸せになる会社をつくらうとしていたのに、社員を不幸にした」と悔恨の思いは消えない。だが、この体験があるからこそ、社員をいままで以上に愛すようになり、社員が愛するエクセレントカンパニーをつくらうとするのであろう。

「10人の社長をつくりたい。」と長谷川氏は言う。活躍の場を持たせられるよう事業を創出し、権限を委譲する。委譲する相手は「全従業員の成長と幸せを実現する」ことを目指す人だ。理念を共有した人間が、全世界に向けてさらなる成長の場をつくっていく。

写真・左上：社名の由来は「エコロジー：ecology とエコノミー：economy」+「北：north」。北海道発の、循環型経済形成に貢献する代表的な企業を目指す。

写真・右上：朝礼の様子。「働く一人ひとりに成長してほしい」という思いから、正規雇用の社員だけでなく、パートやアルバイトスタッフにも理念や目標を唱和する。



北海道当別町で、社員が中心となった積極的な植樹活動「エコノスの森」を実施。2013年で6年目を迎える。



売り場では本だけではなく、おもちゃや服なども扱う。「リユース事業を行なうこと自体が地域の環境貢献となる」という。

会社概要

- ・法人名：株式会社エコノス
- ・代表者：長谷川 勝也 代表取締役社長
- ・所在地：北海道札幌市白石区北郷4条13-3-25
- ・設立年月：1964年3月設立
- ・ホームページ：http://www.eco-nos.com/

- ・事業内容：北海道内において、ブックオフ・ハードオフなどのFC店を展開する「リユース事業」の運営。
気候変動対策・環境保全・発展途上国支援等に関わる事業などの展開、及び、コンサルティング業務
- ・社員数：正規105名、パート・アルバイトなど349名